

今年の発掘成果 縄文人のエゾシカ猟と豊かなアイヌ文化

14年目となる厚真町内の大規模な遺跡発掘調査は、北海道埋蔵文化財センターと合わせて町内外からの作業員約160人の体制で11カ所を行いました。町教委調査の2カ所の遺跡を紹介いたします。

■シヨロマ1遺跡

遺跡は厚真川と夕張へ抜けるシヨロマ川との合流点に面する高台、旧上幌内小学校跡地にあります。平成25年から継続調査しており、今年は約4,000年以上前の縄文人が掘ったTピットと呼ばれるシカ猟の落とし穴79基などが見つかりました。Tピットは平均の長さが約230cm、幅90cm、深さ100cmで、約260mにわたって列状に見つかりました。厚真町でもよく見かけるシカ道に掘られたと考えられ、縄文人たちは山の恵みとしてエゾシカをお肉や毛皮、角や骨などを大切な資源として利用していたことが伺えます。ただし、狩猟場所であったことから、縄文土器や黒曜石の石器などの生活道具はこれまでの発掘調査の中でも少ないという結果にもなりました。

■富里1遺跡

富里地区榎山ふもとの高台に建設中の浄水場工事に係る発掘調査で、延長約60m、幅3mの水道管敷設部分の発掘調査を約1カ月間行いました。小規模な発掘調査でしたが、約4,500年前の縄文時代から約350年前の近世アイヌ文化期に至るまでの土器や石器、鉄鍋などが出土しました。特にアイヌ文化期の成果として、平地式住居跡が2軒、モノ送り場跡1カ所、焚き火跡4カ所などが見つかり、うち1軒は堆積する火山灰から1669年のシャクシャインの戦いの時期とわかりました。しかもこの住居跡は北海道内の発掘調査で見つかった平地式住居跡でも最大規模のものです。出土品でも、綺麗なガラス玉や鉄のナイフ、メカジキの骨も出土しており、活発で豊かな厚真の先住民族の姿が見えてきました。



←列状に見つかったTピット

(人が立っている場所)

【シヨロマ1遺跡・縄文時代】

大陸産のガラス玉→

【富里1遺跡・約500年前】



第2回厚真町中学1年生英語暗唱大会

1月14日に厚真町英語教育推進委員会主催による町内の中学1年生を対象とした英語暗唱大会が総合ケアセンターゆくりを会場に実施されました。

中学2、3年生、小学生を対象とした英語暗唱大会は、8月に実施しています。8月の大会は、胆振管内、そして、全道の中学校英語暗唱大会へと続く大会ですが、この時期1年生には、暗唱にふさわしい題材がなく対象としていません。そこで、昨年から本町独自に1年生英語暗唱大会を実施しています。

この大会は、英語の暗唱を通して英語に対する興味・関心を高めるとともに、生徒の英語能力を高めることや、胆振管内、全道の大会へつながる8月の暗唱大会への動機づけとして実施しています。あわせて、日常の学習の成果の発表の場として保護者、地域の皆様に公開しています。

2回目の今年度は、暗唱の他に、スキット（寸劇）やピクチャーカードを活用しての発表等、日常の英語学習の成果を意欲的に発表していました。

審査の結果は次の通りです。

1位 前田朔治さん

2位 高田華凜さん

3位 當摩航輔さん

4位 佐藤亮太さん、矢倉健瑠さん、吉岡珀和さん※3人でスキットを実施



～1月定例教育委員会会議内容報告～

1月30日に開催された定例教育委員会の会議内容について報告します。

◆報告事項

ICT教育推進研修会/教師力アップ研修会/議会総務文教常任委員会所管事務調査についてなど（6件）

◆協議

厚真町教育振興基本計画/厚真町子ども読書活動推進計画について（2件）

◆その他

厚真町総合教育会議/平成27年度胆振管内教育委員会委員研修会について（2件）

◆問合せ教育委員会学校教育グループ

☎27-2494